

「葉っぱビジネス」で知られる上勝町のように、四国・徳島県の山懐には、キラリ光る事業で注目される自治体がいくつもあります。経済委員会では、その元気の秘訣を視察しました。

リサイクル率6割



（ごみゼロ）に向けた取組み
徳島県上勝町。人口1774人。この四国一小さな町は、2003年の町議会で「2020年でのごみゼロ」を宣言。「日比ヶ谷ごみステーション」を開設し、ごみの減量、資源化に取り組みました。「廃棄物処理法」の改正などで、広域大型焼却炉が建設されるなど、ごみ問題が複雑化する中で、ごみゼロへの取り組みが進んでいます。

徳島県上勝町ごみゼロの取組み 神山町 I-T 産業でまちづくり 佐那河内村地域おこしソーラー発電

卷之三

人が人を呼ぶまちに

去場の建設が計画されましたが、財政難で中途が立たず、ごみの行き場が無くなつたからです。

具体的な事業内容は

①生ごみ全量リサイクル
コンポスト、電動式生ごみ処理機の購入補助により、生ごみは全量各家庭で堆肥化、土に還す。

②ごみの34分別

生ごみ以外は町内唯一の資源集積場「日比ヶ谷ごみステーション」に各自が持ち込み、34種類に分別。分別がわからない場合には作業員が教える。毎日朝7時半から午後2時まで受け入

③リユース推進拠点「くるるショップ」

ごみステーションの一角にある衣類、食器、雑貨などの不用品を自由に陳列できるブース。無料で持ち帰りができ、年間6トンのゴミ削減になる。

④リユース推進拠点「くるる工房」

不要な衣類、布類を利用し、お母さん達がユニーフな商品を製作、販売する。

こうした様々な取組みでは応援隊が戸別収集を行う。小学校では物を大事にする心の教育も行う。

最先端、インターネットのサテライトオフィスが設置され、技術者が続々移住してきています。「21世紀は、東京でも上海でもシンガポールでもなく、神山町にこそある」と評される地域です。自治体の未来像を学び、羽村市の若者の雇用の増加や持続可能な都市のあり方のヒントを得ました。

中心人物は、NPO法人グリーンバレーの理事長、大南信也さん。スタンフォード大学を出て帰郷した町の過疎の現状を受けた一方、完備した光ファ

▲楽しげな店内。上勝町「くるくる工房」 ▼（下左）佐那河内村のみづばちソーラー発電所 ▼（下右）神山町の古民家を改造した「トオフィス」



イバー網を利用し、外部から若者やクリエイティブな人材を誘致。人口は増加に転じ、ベンチャー企業等11社が本社移転してきました。視察したテレビ番組情報を配信する企業は、古民家を改築したオフィスで地域に

貸借し、出

地元に根ざす
小規模太陽光発電

佐那河内村は、徳島県中東部。東は徳島市に接し、里山の豊かな自然に恵まれた約2600人の、県内唯一の村です。その山あいの村有地3千平方メートルを

貸借し、出力120キロワット、年間発電量12万5千キロワット時の太陽光発電所「佐那河内みつばちソーラー発電所」を開設。年間発電量は一般家庭約35世帯分で、四国電力に売電しています。小規模な太陽光発電所ですが、この発電

事業費4千万円のうち、
1口1万円で300万円分
の寄付を募集したところ、
県民を中心に2か月でいっ
ぱいに。不足分は地元金融
機関の融資を受け、事業を
開始しました。

域各種団体、学識経験者等で組織された「運営協議会」で決められることになつて います。発電所運営は、専門家集団「一般社団法人徳島地域エネルギー」に委託。同様な事業は海に面した那賀町、牟岐町にも設置され、

所が生み出す利益を地元に返すことで、地域の産業を振興し、地域に役立つ運営的な仕組みを整えるのが大きな特徴です。地域が参画した発電目的の会社で、「みつばちのように働き者の発電所に」と名付けたそうで

イバー網を利用し、外部から若者やクリエイティブな人材を誘致。人口は増加に転じ、ベンチャーエンターテイメント等の企業等が本社移転してきました。視察したテレビ番組情報を配信する企業は、古民家を改築したオフィスで地域に溶け込んでいました。神山プロジェクトは3つの柱で構成されています。

能な企業の誘致（サテライ
トオフィス）②仕事を
持つた移住者の誘致 ③職
業訓練による後継人材の育
成（神山塾）。

そのために、国際アート
フェスティバルで話題を作
り、ウェブサイトで情報を
発信。まちの将来に必要と
思われる「技術者」「起業家」
を両方育むこと。この後

商店街は活性化し、アーティストに加えクリエーターが仕事をする場となりました。人が人を呼ぶ好循環です。自然の中で、笑顔で働く若者たちの姿を目のあたりにし、今後、少子高齢社会を迎える羽村市が、今、早急に現状を直視し、対策を講じるべきとの思いを強くしました。

經濟委員會

品になり、年収1000万円のおばあちゃんもいるそうです。農協職員のアイディアだそうですが、地元の宝を生かした取組みとして参考になりました。

秋田県横手市 市民行政協働型の

一 健康の駅 (視察日 10月16日)

厚生委員會

秋田県では、地域の課題

題を逆手に取った工夫がされた事業を開いています。今回はその中から、横手市の「健康の駅よこて」と、秋田市の「メガソーラー事業」を厚生委員会が視察しました。

市民交流拠点として

「自治体が取り組む
「健康の駅」」

くりと関連する環境を整えることで健康寿命の延伸を図る、「健康」をテーマにした市民の交流拠点であり、自治体が進めている健康の駅は全国に5か所あります。

火田市の大規模発電

雪国でも発電可能
メガソーラー事業

今回の視察から、介護予防も健康づくりであり、そのためには継続が大切であること、生活習慣病の予防に加え、加齢に伴う運動器疾患の予防も重要であること、また町内会・自治会等地域の理解と支援が不可欠であるとの認識を再度強く持ちました。健康づくりも、



▲健康の駅よこて東部トレーニングセンターに設置されているトレーニングマシン ▼メガソーラー発電所の太陽光パネル群 ▼パネルの説明を受ける



の成の依地のり　い規パタエがでにす外が

和田市立木津川小学校

メガソーラー事業
再生可能エネルギー

これまでの指導・教育型から支援型の事業展開へと変化させなくてはならないと感じました。

とつてもたいへん重要な課題です。自治体が空き地を利用して再生可能エネルギーを産み出している好例

産み出せる電気量は年間約
182万キロワット時。一
般家庭約520軒分に匹敵
します。この電気は、1キ

大により、一時買い取り契約を中止することを発表しました。今後の推移を見守りたいと思います。

年間で約6300万円の黒字となる計算です。実際に1年間稼動してみて、予定を上回る発電量を確保できているそうです。

メガソーラー事業は、FIT（固定価格買い取り制度）がスタートしたことを契機に、全国で取組みが一斉に広がりました。秋田市の場合がそうですが、制度発足当初の1キロワット時料金40円という価格設定であれば、黒字化することは比較的容易です。しかし、買取価格は年々引き下げられており、環境センターでは、今後、新たなパネルを設置する予定はないとのこと。また、東北電力は、再生可能エネルギー量の増

全国で最下位。特に冬季は降雪や曇天が多い中で、各家庭へのソーラーパネル等の設置補助事業は伸び悩んでいます。この施設はそれを打開する一つの「実証実験」として、雪国でも十分に太陽光発電が可能であることを知らせる役割も果たしています。自治会や学校などから多くの観察者が訪れていました。

公共用地の有効活用、経済的な課題、住民への啓発という視点など、さまざまな事を考えさせられる観察となりました。

秋田県横手市の「健康の駅」
よこて」はその一つで、平成
24年度には、「第1回健康奉
命をのばそう！アワード」
で厚生労働省健康局長優良
賞を受賞しています。

横手市では、平成15年度
から「健康の駅」の検討を
開始し、翌年には第1号の
「小規模駅」となる「上真山
健康の駅」を開設しました。
平成17年度には1市5町2
村の合併により新横手市と
なり、「大規模駅」となる「健
康の駅よこてトレーニングセ
ンター」を開設しました。
その後も健康の駅を拡充
し、現在、トレーニングセ
ンターで実施する「大規模
駅」3か所、公民館などで実
施する「中規模駅」18か所

町内会館などで実施する「小規模駅」58か所で事業展開しています。

横手市が目指す「健康の駅」

横手市は高齢化率が3割を超えており、超高齢社会という言葉でも表現しきれない状況です。そんな中、横手市では、高齢化率の上昇は簡単には防げないが、元気な高齢者を増やす取組みが重要となるとの結論を得ました。

そこで、「市民自ら取り組む健康づくりを支援する」「主な活動母体は市民であり、「市民行政協働型の健康の駅づくり」を追求する」「地域コミュニティの再構築から地域が明るく元気になり、地域全体の健康度向

上を目指す」という狙いで、健康の駅事業の活動方針も決めました。「子どもから高齢者まですべての年齢層における健康づくり支援」です。

基本方針は、乳幼児期、学童期、若年期・中年期、高齢期に分け、ライフスタイルごとに事業を展開しています。医療・保健・福祉の有識者会議、各地域局保健事業との連携を取りながら、各地域の特性に応じた健康の駅を目指しているのです。

健康の駅で実施する事業は、施設規模によつて異なり、「大規模駅」では、トレーニングセンターでトレーニングマシンを提供し

A photograph showing a group of people in a classroom or meeting room. They are seated at long wooden tables, performing a series of stretching exercises. The room has large windows on one side and fluorescent lighting. A computer monitor is visible on the left desk.

▲健康体操を実際に体験する



▲健康体操を実際に体験する

しき“かい”カレンダー

●3月定例会の予定●

日	月	火	水	木	金	土
2 / 15	16 陳情×	17	18 議運	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28 本会議

3 / 1	2 本会議	3 予特	4 本会議	5 常任委	6 常任委	7
8	9	10	11	12 予特	13	14
15	16	17	18	19	20	21 本会議
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

■陳情×…請願・陳情の3月定例会審議予定分の締切

■議運…議会運営委員会

■常任委…常任委員会（総務、経済、厚生）

■予特…予算審査特別委員会

*会議の予定は変更になる場合があります。

詳細は議会事務局までお問い合わせください。

議会を見よう！知ろう！

～次は3月定例会～

本会議でどんなことがどのように話し合われているのか、様々な手段で知ることができます。皆さんの暮らしに直結していることはかりです。ぜひご覧ください。

1 議場で傍聴　—ライブで！

当日、直接議場へおいでください。

2 ケーブルテレビで生中継

TCN多摩ケーブルネットワークで、本会議の様子を生中継でご覧になれます。放送日は横のカレンダーをご参照ください。

3 インターネットで録画中継

開催日の3日後から、インターネットで録画中継を見ることができます。

4 会議録で読む

議会終了後2か月程度で会議録ができあがります。冊子または、羽村市ウェブサイトから見ることができます。

編集後記

川崎 大塚 印南 石居 明夫 あかね 修太郎 尚郎
山中 橋崎 峰嶋 本陽 勝 弘一

議会だより編集委員会

(川崎記)

最近は、「ゲリラ豪雨」とか「爆弾低気圧」と物騒な冠のついた気象環境ですが、市民の皆さんにとって素晴らしい年になりますようにお祈りを申し上げます。

私はまだですが、皆様のご意見をお聞きし、「きかいのトビラ」についての評価をいただきました。総括はまだですが、皆様のご意見をしっかりと受け止め、今後の編集に生かしていきたいと思っています。今年も早、2か月を過ぎました。



「きかいのトビラ」は再生紙を使用しています。

発行／羽村市議会 編集／議会だより編集委員会

〒205-8601 東京都羽村市緑ヶ丘5-2-1 Fax 042(555)0889

Tel 042(555)1111 (内線412~414、416)

羽村市ウェブサイト <http://www.city.hamura.tokyo.jp/>

羽村市議会

検索